

## 私の原点

上智大学総合人間科学部教授  
一般社団法人未来研究所臥龍代表理事

香取 照幸

国保と私との関わりは厚労省との関わりよりもずっと長い。私は東京で生まれ育ち、国保は私が生まれて数年後にできた。生家は自営業だったので小さい時からずっと国保の被保険者、親族も自営業が多かったので私の知る医療保険は国保だけ、保険証といえば国保のそれだけであった。何せ「国民健康保険」という位だから世の中には国保しかないと思っていたのだ。なので、小学校の同級生が色の違う保険証(らしきもの)を出し、担任の教師が「あ、君の家は会社員、社会保険だね」といったのを聞いてひどく驚いたのを覚えている。「社会保険」という名前を聞くのが初めてだったのと、馬鹿げた話だが「サラリーマンって「国民」じゃないのか?」と子供心に不思議に思ったのである。どうも当時から私は変に理屈っぽい性癖だったらしい。

縁とは面白いもので、大学を卒業して旧

厚生省に奉職し最初に配属されたのが国保課だった。なので、官僚としての私の出発点もまた国保ということになる。ちなみに国保課にはその10年後、埼玉県庁から戻って補佐として2度目の務めをすることになる。私の役人人生で2度奉職した課は国保課だけである。

昭和55年5月に研修を終えて国保課に配属された初日、前任者だった2年先輩の山崎さん(現駐リトアニア共和国日本大使)から一冊の本を手渡された。分厚いオレンジ色の本だった。題名は「国民健康保険基礎講座」。

「連休中に読んでおくように。連休明けからすぐに仕事だからな。」素直な一年生(笑)の私はその年の連休中、メモを取りながらこの分厚い講座本と格闘した。

「国民健康保険基礎講座」は版を重ねて現在でも出版されている(と思う)が、当時の基

礎講座は現在のものとは内容が全く違っていて、全体の半分近くが「日本の医療保険制度の制定・発展の歴史」を国保を通じて詳しく解説している、いわゆる制度解説本とは趣を全く異にするものだった。

昭和恐慌に始まり、農村の疲弊、経済の混乱、日中戦争、軍国主義という時代背景が描かれ、その中で「国民健康運動」の一環として時の内務省「革新」官僚たちが構想したのが昭和13年に制定された旧国保法。そして終戦後の混乱と旧国保制度の崩壊・破綻。その後、講和条約、朝鮮戦争、戦後復興と時代が進む中で、国民皆保険を求める国民世論、新生厚生省と全国自治体の努力で国保制度が再建され、昭和33年に現在の国保法が成立して国民皆保険が達成される。

制定当初の国保は、5割給付、入院承認制、投薬も剤数制限(3剤、と記憶する)があり、今とは比べ物にならない「制限医療」の



## 香取 照幸

かとり てるゆき

### プロフィール

出身地 東京都  
生年月日 1956年10月3日  
上智大学総合人間科学部教授  
一般社団法人未来研究所臥龍代表理事

#### 【学歴】

1980年 3月 東京大学法学部卒

#### 【職歴】

1980年 4月 厚生省入省  
1980年 5月 厚生省保険局国民健康保険課  
1983年 2月 在フランスOECD(経済協力開発機構)事務局研究員(医療プロジェクト担当)  
1990年 4月 埼玉県生活福祉部老人福祉課長  
1992年 4月 厚生省保険局国民健康保険課課長補佐  
1996年 7月 厚生省高齢者介護対策本部事務局次長  
1998年 4月 厚生省大臣官房組織再編準備室次長  
2001年 1月 内閣府参事官(経済財政諮問会議事務局)  
2001年 5月 内閣官房内閣参事官(総理大臣官邸)  
2008年 2月 内閣官房内閣参事官併任  
(社会保障国民会議事務局)  
2010年 7月 厚生労働省政策統括官(社会保障担当)  
2010年 11月 内閣官房内閣審議官併任  
(社会保障・税一体改革担当)  
2012年 9月 厚生労働省年金局長  
2015年 10月 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長  
2016年 6月 退官  
2017年 3月 在アゼルバイジャン共和国駐劄日本国特命全権大使  
2020年 4月 上智大学総合人間科学部教授  
2020年 8月 一般社団法人未来研究所臥龍代表理事

#### 【公職】

日本年金学会会員、日本医師会 医療政策会議委員、  
日本地域包括ケア学会評議員など

#### 【著書】

「介護保険制度史」(共著)「教養としての社会保障」  
「民主主義のための社会保障」(いずれも東洋経済新報社)

給付だった。その給付内容を粘り強い努力で1つ1つ改善していった経緯(給付率引き上げ、制限診療撤廃、国庫負担引き上げ等々)が時代背景と合わせて、まるでドラマのように具体的に記述されていた。

制度の歴史を知ることとはとても重要である。先人たちは何を思い、何を実現するためにこの制度を作ったのか。制度を支える理念は何なのか。制度がいかに生まれ、いかに時代に合わせて発展・変遷してきたのか。温故

知新とは誠に正しい箴言で、過去を知ること  
で私たちは将来への道標を見出すことができる。

かつて国保には保健婦(現在の保健師)がいて保健活動は国保事業の大きな柱だった。全国市町村には国保直営病院・診療所があり(もちろん今でもある)、住民―被保険者の健康を守ってきた。大袈裟でなく、私は「基礎講座」から実に多くのことを学んだ。社会保険にはない国保の歴史。国保は単なる医療

保険ではない。保険を超える保険なのだ。  
役人生活の出発点が国保だったことは、私にとって最大の幸運だったと思っている。国保の歴史を学ぶことで、国民の健康と生活を守るといふ厚生省のミッションを学び、役人としての覚悟と心構えが私の中につかりと位置付いた。国保は私の原点である。

記事提供 社会保険出版社